

第2号議案

道路改築事業

あがつまに
国道145号 吾妻西バイパスひがしあがつま まつや あつだ
東吾妻町松谷～厚田

着工年度

平成21年度

評価理由

5年継続

1. 事業の目的

国道145号吾妻西バイパスは、地域高規格道路である「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等とのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化やハツ場ダム地域の生活再建を支援し、また、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るものである。

【上信自動車道全体の効果】

○医療機関への搬送時間の短縮

- ・吾妻地域から県央地域の第3次医療機関への60分圏域人口が約1万1千人増加

【約115千人 ⇒ 約126千人】

○関越自動車道へのアクセス向上

- ・関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮

【約90分 ⇒ 約60分】

○ハツ場ダム地域の生活再建を支援

【上信自動車道 吾妻西バイパスの効果】

○国道145号の通行の安全の確保

- ・防災点検必要対策箇所5箇所及び地すべり危険箇所1箇所を回避



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	ひがしあがつま まつや あつだ 東吾妻町松谷～厚田	
区分	今回	事業当初
全体事業費	9,700百万円	9,700百万円
事業期間	H21～H30	H21～H30
事業内容	道路延長 7,000m 幅員 10.5m	道路延長 7,000m 幅員 10.5m

事業経緯

年度	主な経緯
H21	基準点測量 平板測量
H22	路線測量 道路詳細設計
H23	道路詳細設計 用地調査
H24	用地調査 用地買収着手

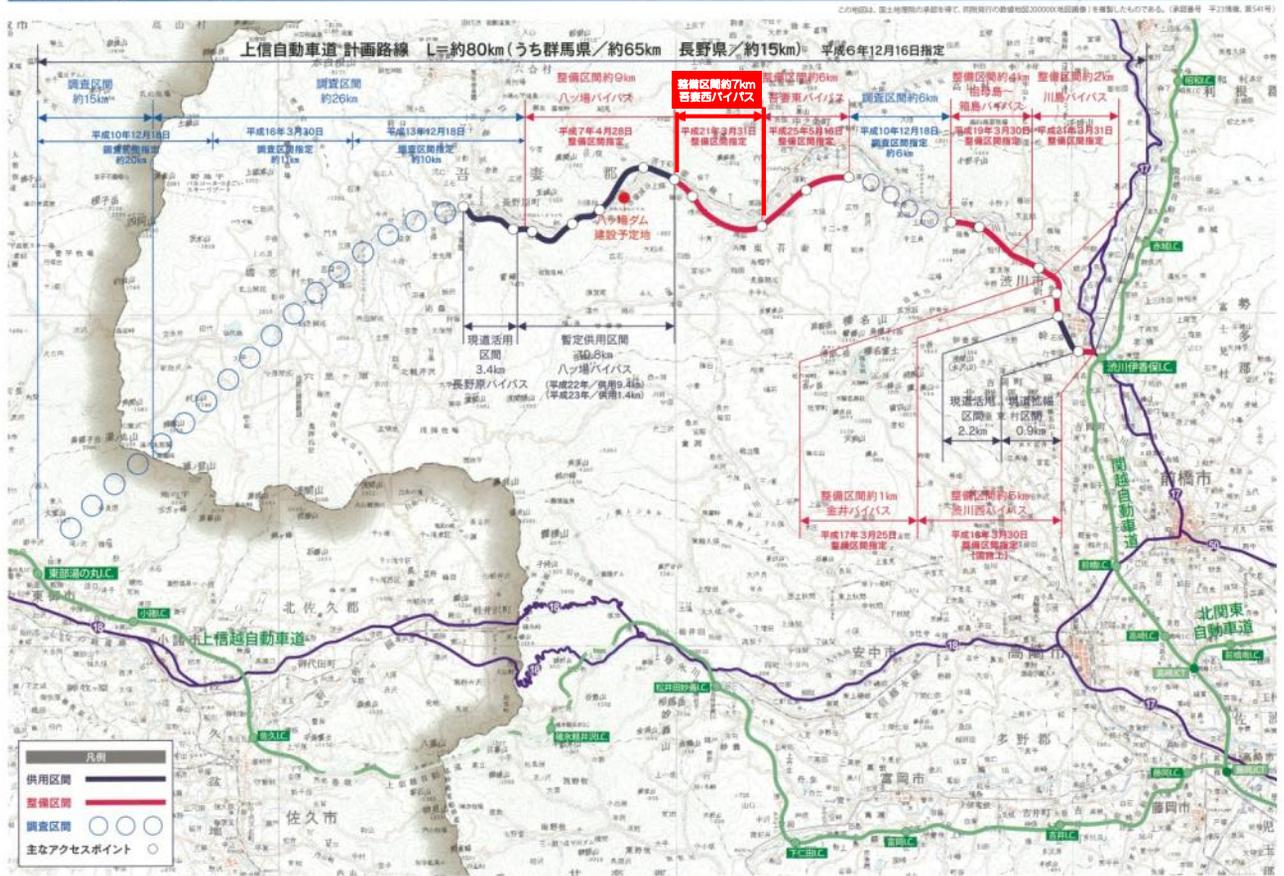
進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
事業費	9,700百万円	2,236百万円 (23.1%)	
用地買収	214,400㎡	89,400㎡ (41.7%)	
計画延長	7,000m	0m (0.0%)	

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

地域高規格道路「上信自動車道」

上信自動車道 計画路線図



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・国道145号(東吾妻町岩島～郷原付近)は、道路防災点検要対策箇所5箇所及び地すべり危険箇所1箇所が存在しており、第1次緊急輸送道路でありながら、吾妻川沿いに県道以上の複数路線が確保されておらず、この代替機能を確保する必要性は依然として高い。
- ・吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により、物流・観光等の地域間交流の活性化や、中核的医療施設への患者搬送時間短縮が望まれている。
- ・ハッ場ダム建設にかかる生活再建支援が引き続き強く求められており、当該路線とハッ場バイパスとの連携による水没関係者の生活再建支援が望まれており、事業の目的・必要性に変化はない。

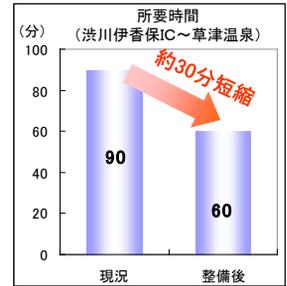


国道145号斜面崩壊
(H18.10.10)

国道145号の斜面崩壊状況



中核的医療施設への60分圏域



所要時間
(渋川伊香保IC～草津温泉)
約30分短縮
90 60
現況 整備後
渋川伊香保IC～草津温泉
アクセス時間

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ・本バイパス事業の実施により、通行の安全確保、中核的医療施設への搬送時間の短縮、関越自動車道へのアクセス向上など、吾妻地域と県央地域間における安全性や移動時間の改善を図ることができることから、目的を達成する事業として適当である。
- ・道路縦断計画の見直しにより、橋梁延長の短縮による工事費の低減や土工量収支に配慮した残土の有効活用による処分費の低減等に努めているところである。

費用便益分析

単位:千円

		計 画 時		今 回 再 評 価 時		備 考	便 益 説 明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月			
基 準 年		平成20年		平成25年			
区 分	項 目	現 在 価 値	構 成 比	現 在 価 値	構 成 比		
費 用 (千円)	工 事 費	7,935,000	90.7%	8,277,000	92.7%		社会的割引率を考慮した 現在価値化による
	維 持 管 理 費	816,000	9.3%	656,000	7.3%		マニュアルの標準値から 実績値の採用に変更
費 用 合 計 (C)		8,751,000		8,933,000			
便 益 (千円)	走 行 時 間 短 縮 便 益	12,709,000	83.0%	8,950,000	71.7%		道路ネットワークの変更による (将来計画ネットワーク (前回) ↓ 事業化ネットワーク (今回))
	交 通 事 故 減 少 便 益	2,554,000	16.7%	1,831,000	14.7%		
	走 行 経 費 減 少 便 益	40,000	0.3%	1,694,000	13.6%		
便 益 合 計 (B)		15,303,000		12,475,000			
費 用 対 効 果 分 析 (B/C)		1.75		1.40			

5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画

不測の事態により長期化 】

・インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進するが、事業延長L=7.0km、全体事業費97億円と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、埋蔵文化財調査及び工事完成までに長期間を要する計画となっている。

【参考】

事業期間 調査設計:3年間 用地交渉(地権者約300名):4~5年間
埋蔵文化財調査:2~3年間 工事:6年間
主要構造物 橋梁:9橋 厚田インターチェンジ:1箇所

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

国道145号吾妻西バイパスは、地域高規格道路である「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等とのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化やハツ場ダム地域の生活再建を支援し、また、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

国道145号は、道路防災点検要対策箇所5箇所及び地すべり危険箇所1箇所が存在しており、第1次緊急輸送道路でありながら、吾妻川沿いに県道以上の複数路線が確保されておらず、この代替機能を確保する必要性は依然として高い。

依然として吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、物流・観光等の地域間交流の活性化や、中核的医療施設への患者搬送時間短縮が望まれている。

ハツ場ダム建設にかかる水没関係者の生活再建支援が引き続き強く求められており、必要性が高い状況は変わらない。

当該事業実施にあたり、地元市町村や地域住民との合意形成に努めた結果、道路計画や構造についての同意が得られたため、平成24年度には用地買収に着手し、平成25年度から橋梁工事に着手したところである。平成30年度の開通に向けて、1日も早い効果発現に向けてバイパス整備を推進する。

整備推進にあたっては、道路縦断計画の見直しにより、橋梁延長の短縮による工事費の低減や土工量収支に配慮した残土の有効活用による処分費低減等に努めているところである。

吾妻地域と県央地域の移動時間の改善、医療機関への搬送時間の短縮の観点から、事業の必要性、重要性は高く、早期に効果発現を図ることが適切であり、事業継続が妥当と考える。